

Q. 『ONE WORLD』では指導する語彙をどのような方針で選定していますか。

A. 新学習指導要領では、中学校において、小学校で学習した語（600～700語程度）に1,600～1,800語程度の新語を加えて指導することとされています。

『ONE WORLD』では、文部科学省の教材『Let's Try!』と『We Can!』、および教育出版が発行する教科書『ONE WORLD Smiles』に基づき、「小学校で学習したとみなした語」を621語選定しました。

新語としては、過去のさまざまな研究による重要語、頻出語リストや教科書における掲載率をふまえて、中学生のコミュニケーションや言語活動に必要なと考えたものを選定しました（1年生605語、2年生575語、3年生483語、計1,663語）。

Q. 新学習指導要領では、指導する語彙が大幅に増加し、学習上の負担も懸念されます。教科書では語彙をどのように扱っていますか。

A. 語彙指導において、すべての語彙を同じように扱う必要はなく、聞いたり読んだりして意味を理解できるように指導したい語（受容語彙）と、話したり書いたりして表現できるように指導したい語（発信語彙）があると考えられます。

受容語彙と発信語彙をすべての学習者に対して一律に規定することは難しいですが、『ONE WORLD』では、主に本文で扱っている語（前述の1,663語のうち1,130語）が最終的に発信語彙となるよう指導したい語です。その中で、さらに986語を「特に覚えたい語」として選定し、

Words & Phrases 欄やWord Listにおいて太字で示すことで、学習段階や生徒の実態に応じた指導のご参考になるよう配慮しています。

Q. 不定詞や動名詞が1年生から使われていますが、どのような意図によるのでしょうか。

A. 2020年から教科となった小学校英語で、want to ～, enjoy ～ ing, like ～ ing, be good at ～ ingといった表現が定型表現として指導されています。生徒が小学校で慣れ親しんできたこれらの表現を、早い段階から素地として活用しながらより深い学びにつなげるため、これらの定型表現に限って1年生から掲載しています。文法事項としての不定詞、動名詞については、2年生のLesson 3, 4で学習します。

Q. 過去形の学習時期が1年生のLesson 4となっていますが、どのような意図で配置されているのでしょうか。

A. 小学校英語で、went, ate, saw, enjoyed, wasなどの過去形の動詞が指導されています。前述のwant to ～などと同様の考え方で、これらを早い段階から素地として活用するために、Lesson 4に配置しています。過去形の使用場面としては、小学校英語で指導されているのと同じ「夏休みの思い出」を採用しています。



Q. 新学習指導要領では、中学校で現行にない新しい言語材料をいくつも学習することになります。教科書でどのように扱われていますか。

A. 4つの事例をご紹介します。
【S+be動詞+形容詞+that節】

I'm sorry [happy] that ～と、出来事に対する感想を述べる平易な表現として取り上げました。

【SVO+原形】

Let me see. やLet me talk about ～. といった定型表現、〈help + 人 + 動詞〉といった活用しやすい表現として取り上げました。

【現在完了進行形】

現在完了形の用法のうち、動作の継続を表すものと関連させて取り上げました。あわせて、旧版教科書では1つのLessonで扱っていた現在完了形を、2つのLessonにわたって丁寧に扱う形に変更しました。

【仮定法】

生徒にとって身近な形で扱えるように、友達の悩みを聞いたり、友達にアドバイスしたりする場面を題材として設定しました。「もし兄弟がいたら～できるのに」、「私があなたの立場なら～するのに」といった、感情がこもった会話を通じて、仮定法への理解を深めることができます。

Q. 教科書で使用している書体について教えてください。

A. 主に3つの書体を使用しています。

【1年生導入期の書体①】

小学英语教科書で使われているものと同じ、読みやすさ、書きやすさに配慮した字形の書体です。

ABCDEFGHIJ abcdefghij

【1年生導入期の書体②】

書き文字にも、一般の印刷物に使われる書体にも近く、小さいサイズでも可読性の高い書体です。1年生中盤のLesson本文や、3年間を通じて活動パートでも使用しています。

ABCDEFGHIJ abcdefghij

【1年生Lesson 8以後の書体】

一般の英語の印刷物、とくに書籍や新聞で広範囲に使われるローマン体の書体です。実社会で目にすることが多い代表的な書体に慣れ親しんでいくため、1年生の終盤から導入しています。

ABCDEFGHIJ abcdefghij

Q. 学習到達目標や評価については、教科書でどのように扱われていますか。

A. 生徒が、中学校3年間の学習について見通しを持って取り組めるようにするために、教科書の裏見返しに「Can-Do自己チェックリスト」を設け、5領域にわたって英語でできるようになりたい項目をわかりやすく掲げています。各Part等の冒頭に掲げた目標に向かって学習することで、英語でできるようになることが積み上がっていきます。

各Lesson末には、「Lesson ○ をふり返ろう」のコーナーに3つのチェック項目を示しています。言語材料の理解と活用、5領域を通じた理解や表現の活動、コミュニケーションの目的や相手を意識した活動についてふり返ることができま

